日本語の文型の習熟に対する生徒チームー成績班（Student Teams Achievement Divisions）タイプ協同学習モデル-の効果

（2016/2017 学生 SMAN１４の XI のクラスの実験研究）

ジャカルタ国立大学
サウサン。サルワ。カリマー
Sausan.salwa24@yahoo.com

概要

A. はじめに

日本語学習の中には、文法を学ぶ事は必要なことである。正しい文法を使ったら、自分が何を言いたいのかや、その目的などをはっきりつたえることができる。SMAN 14 Jakarta の XI IPS 1 のクラスでの日本語学習で、今使っている学習方法は講義方法である。講義方法は教師中心の学習方法なので、学習の時のクラス全体が活動するためには、このような方法はあまり相応しくないと思う。教師のモチベーション不足や、生徒同士の無関心などのため、クラスでの学習の中心はただ活発な生徒だけに集まることになる。Nuibe Yoshinori (1991 : 238)によると、グループで　共有活動は協同的学習典型である。競争学習。個別的学習・協同的学での外国語学習がもっとも成果が高い。肯定的フィードバックを与えあい支えあうといった関係や、温かい雰囲気の中で、学習者はもっとも成長し、学習は促進される。そして創造力が発達するのである。そして、生徒チーム成績班は協同学習モデルのひとつである。STAD の利点は次のようである

1. 生徒が授業を簡単に理解することができる。
2. 生徒は相互に作用するのを助けることができる。
3. 生徒はクラスの学習にもっと活発になることができる。
4. 生徒にもっと自信をもたせることができる。

だから、この団体的な学習方法で、学習の時、生徒が全員で活動できるようになることを願っている。

本研究の目的は三つであり、次のようなことである

1. 日本語の文型の習熟に対する生徒チーム成績班タイプ協同学習モデル-の効果を知るためである。
2. 日本語の文型の習熟に対する生徒チーム一成績班タイプ協同学習。モデル学習に効果を与える要因を知るためである。
3. 日本語の文型の習熟に対する生徒チーム一成績班タイプ協同学習モデルの使用による学習者の印象を知るためである。

B. 研究方法

本研究の方法は実験で、研究のデザインは One-Group Pretest-Postest Design である。研究の場所は SMAN 14 Jakarta. サンプルは高校生で XI IPS 1 クラスの学生 36 名で、2016/2017 学年である．研究手段はテスト（事前テストと事後のテスト）及びアンケートを用いた。

C. 研究結果と分析

1. 前後テスト、アンケートを元にした。

サンプルは３６名なので、有意義は7０で、自由度は５％であり，t 表は1.99３ 点のことになる。

前後テストの計算結果の表

計算結果	事後テスト	事前テスト
平均点	90,61	51,52
標準偏差	12,713	11,227
標準エラー	2,151	1,899
x-y 差の標準エラー	2,689	
t 数	13,62	
t 表	1,993	

この表を見ると、t 数は 13,62 点で、t 数は t 表より高い(13,62>1,993)ので、HK が採用されているということである．つまり,STAD タイプ協同学習モデル使用は学習者の日本語の文型の習熟を高めることにおいて効果的であるという意味である。

2. アンケートの結果の分析

36 名の学習者に対するアンケートの調査に基づいて、次の結果が分かった。

1. 72,2 % の学習者が「生徒チーム-成績班(STAD) タイプ協同学習メソッドは学習者が日本語の文型を簡単に理解することができる」と答えた。
2. 69,44%の学習者が「STADで教える教材は以前のメソッドより面白く感じる」と答えた。
3. ８３％の学習者が「協同学習では個人的学習より教材を簡単に理解することができる」と答えた。
4. 52,77% の　学習者が「STAD で質問して、意見を伝えることにもっと自信が出た」と答えた。
5. 66,66％の学習者が STAD で学習の時に友達と相互扶助するようになった。
6. 55,55%の学習者が「学習の終わりごとに個人テストがあるのは、どれくらい自分が教材を理解しているか知ることができる」と答えた。

３．原因は学習成果に影響をあたえる

多くの原因は学習成果に影響をあたえる。観察によると、この研究で学習のプロセスと成果に対して影響を与える原因は健康・知能・興味・性格・生徒学習の習慣・クラス状況・クラスに生徒の社会的環境である。

D. おわりに

前後テストの結果によると、事前テストの平均点は 51.22 点で、事後テストの平均点は 90.61 点である。事後テストの平均点のほうが高いので、生徒チーム成績班タイプ（STAD）協同学習モデルの効果で学習者の日本語の文型の習熟が上がったことになる。

前後テストの計算結果によると、t 数は 13,62 点である。36 名のサンプルで、有意義は 70 で、自由度は５％であり、 t 表 は 1.993 点のことになる。t 数は t 表 より大きいので、Hk が採用されているということとなった。ということで、STAD タイプ協同学習モデル使用は学習者の日本語の文型の習熟を高めることにおいて効果的であるということが分かった。またアンケートの結果によると、大半の学習者は「日本語の文型の習熟に対する生徒チーム成績班（Student Teams Achievement Divisions）タイプ協同学習モデルは面白く、日本語の文型を簡単に理解できる」というのが本研究に関して学習者の意見である。